

## 岡山県地震・津波対策専門委員会等の検討状況について

### 1 防災強化検討プロジェクトチームについて

先に市町村に対して行った現行の防災対策に関する調査結果を含め、本県の防災対策の現状確認を行うとともに、それぞれの課題について検討を行った。

#### (1) ソフト対策

市町村に対して行った調査結果から、自主防災組織の設置、防災情報の伝達、災害時要援護者への支援、避難計画の策定、避難所等の整備、避難訓練の実施状況などについて現状把握と検討を行った。

(例) 自主防災組織の組織率

- ・ 県全体 50.8% (全国42位)
- ・ 沿岸市 47.6%

市町村が認識する課題

- ・ 災害の少ない地域で防災意識が低いため組織の結成につながらない。
- ・ 普及啓発等の予算や対応職員の不足

#### (2) ハード対策

建築物の耐震化(県耐震改修促進計画)、県有施設の耐震化、海岸保全施設の整備、県管理道路の対策、ライフライン、液状化危険地域などについて現状把握を行った。

(例) 住宅の耐震化率

- ・ H17年度 67%
- ・ H27年度 90% (目標)

木造住宅等に対しては、耐震診断及び耐震改修への補助を実施

#### (3) 今後の予定

それぞれの課題に対する専門委員会の意見を聴いて、今後、具体的な対応策を検討する。

## 2 岡山県地震・津波対策専門委員会について

東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）について、科学的な視点からのこれまでに判明したことの解説を聴くとともに、先にプロジェクトチームにおいて行った本県の防災対策の現状等に対する意見を聴いた。

### （1）東日本大震災について

- ・ 今回の震災の特徴は、地震・津波・原発事故という複合災害だ。
- ・ 地震発生のメカニズムが想定以上だった。プレート境界地震の発生は、累積潜り込み量Aと地震の滑り量Bが、 $B=A$ の関係が成り立つという前提があったが、今回は $B \approx 2A$ となった。
- ・ 津波が防潮堤を乗り越えることは想定していないから、乗り越えたとたんに脚部が波で掘られて破壊された。1波で壊れるとコントロールがきかなくなる。
- ・ 負傷者が阪神・淡路大震災より圧倒的に少ない。つまり津波の場合は生きるか死ぬかのどちらかということ。

### （2）本県の防災対策の現状等に対する主な意見

- ・ これにより遅れているところが浮き彫りにされている。全部を対象にするのではなくて、重点的なところを、取り組めばよい。
- ・ 市町村の関心が低い点が気になる。岡山県はあまり大きな災害を経験していないということも反映していると思うが、避難訓練の実施状況などを見ても、あまり熱心に取り組んでいない。
- ・ 避難訓練をしていない市町村があることに驚いた。よく似た市町村同士で悩みを共有し努力していくスキーム、比較できる仕組みが必要だ。
- ・ 道路の液状化が起こったときのことは、いずれ国の専門調査会で、新しい地震・津波の基準が出てくると思う。
- ・ 局所的な災害で市町村が被災したときは県職員が手伝いに行く、大災害が起きて県で対応できないときは、近県に応援をお願いする必要があるということ県職員一人ひとりが認識しておくことが大事である。

## 3 今後の予定

第2回会議を7月下旬に予定し、防災対策について具体的に検討を行う。